

# 巻 頭 言

## 生涯研修セミナーから 総会フォーラムへのバトンタッチ

愛知県小児科医会 副会長  
大城 誠

令和3年秋となっても生活や仕事への負担増をもたらしているコロナ禍にうんざりしています。ふと思いつくのは、新型コロナウイルス感染症COVID-19の影響を真っ先に受けたのは、愛知県小児科医会が計画していた第15回日本小児科医会生涯研修セミナー（セミナー）であったことです。あれからもうすぐ2年になります。不運にも幻に終わったセミナーですが、いずれ愛知県小児科医会に再度の開催担当が回ってくるかもしれません。その準備過程と中止となるまでの経緯を備忘録として巻頭言に残すことも悪くはない、と思いました。

平成28年末に愛知県小児科医会内にセミナー準備委員会が設置されました。幸か不幸か、準備委員会副委員長の任を受けてセミナーの準備に取り掛かりました。1日1会場で開催されるセミナーの会場は、アクセスも良くて会場費が手頃なウインクあいちが選ばれました。過去に開催されたセミナーの収支情報を得て、支出が580万円でも参加者が400人であれば、余裕をもってプラスとなることが予想されました。運営代行業者は三社くらいに掛け合いましたが、費用面よりも応対がよくてウインクあいちの指定管理業者であることなどの理由からコンベンションリンクージを選びました。実際に平成29年10月にウインクあいちの会場を無事に予約することができました。平成30年3月までに準備委員会にて、セミナー午前の部は近年必要度の高いアレルギー・虐待・自閉症スペクトラムについて実績のある愛知県の講師をお迎えして、ランチョンセミナーから午後の部は愛知県四大学小児科教授から各々の専門分野の最新情報を拝聴する企画が計画されました。各講師の先生には快く承諾をもらうことができ、演者交渉もすんなり済みしました。平成30年9月に広報用チラシが完成し、前年度開催の広島セミナーでの配布や日本小児科医会会報・ニュースと共に郵送されました。令和という新年号はその当時はわかっていませんでしたので、西暦表示に統一していたことを覚えてい

ます。

ここまでは順調でしたが、セミナー開始1年を過ぎた平成30年12月に最初の試練がやってきました。ランチョンセミナー協賛の内諾を得ていたジャパンワクチンが解散する一報でした。急遽、別の企業との交渉が必要となり、セミナー開催5か月前の令和元年5月にMSD株式会社から協賛の承諾を得て、ようやく安堵することができました。また、広告掲載企業10社と展示企業3社が、予定通りに協賛してくれました。

セミナー開催前月から時間に追われる毎日となりました。今時どの学術集会も参加方法はWeb申し込みであるのに、このセミナーはFAX申し込み後に振り込みによる入金を確認して、その後に参加予定者に事前参加申込書とプログラムを郵送するという手間のかかる作業が必要でした。前年セミナー開催の広島小児科医会は、コスト削減のためこの作業を自前で行ったと聞いておりました。愛知県小児科医会としては、収支に余裕があると算段していましたので運営代行業者にこの業務を委託しました。ただ、これらの事務的業務に愛知県小児科医会事務局上屋さんにも加わってもらいました。上屋さんには大変な仕事を押し付けてしまいましたが、本当に助かりました。一方、講演集の完成が、原稿の入手が遅れてセミナー開催前月下旬にずれ込んで大慌てとなりました。事前参加者へ講演集の郵送は何とか間に合いましたが、この過程でも「講演集で二人の講師の肩書が掲載されていない」「参加者のFAX申し込みは済んでいるが、入金の確認が遅れて講演集の発送が間に合わない」などの問題が発覚しました。これらの不備には、セミナー当日に対応することにしました。

前日にリハーサルを計画して令和元年10月13日の当日を迎えるだけとなりました。しかし、数日前から日本列島が台風19号の直撃を受けることが予想されました。交通機関が計画運休となって講師の先生や参加者の会場入りが困難となる恐れがあり、台風被害のあった地域ではセミナーどころではありません。日本小児科医会と合議の上、10月11日にセミナー中止が決定されました。直ちにメールやFAXで講師や参加予定者へ中止の連絡を行い、日本小児科医会や愛知県小児科医会ホームページに掲載するなどの対応を行いました。この時もセミナー自体のホームページがないことの不便を改めて感じました。皮肉にも開催日の名古屋は台風一過で晴れ渡り、中止の通知が参加者全員に届いているか心配であり、準備委員会のメンバーが念のためウインクあいちで待機

しました。すると中止の情報を知らない23名の先生が会場に来られ、皆で謝罪しました。

この後の1か月は当時の愛知県小児科医会岡田会長が奔走されて、令和2年3月1日に名古屋市公会堂にての延期開催まで漕ぎつけました。各講師やランチョンセミナー協賛会社にも再度の協力を得ることができました。延期開催に参加できない先生への返金作業が手間であり、この時も上屋さんにお手数をお掛けしました。会場の都合で企業展示は中止となって協賛金を返金しました。専門医単位申請に関して日本小児科学会と交渉および受講書や引換券などを再度作成する必要がありました。

令和2年となり、3月なので流石に台風はないであろうと高を括っていたところ、このセミナー延期開催もよもやのCOVID-19の来襲を受けました。早めの2月21日に中止が決定されて、中止の報を講師や参加予定者に伝えることができました。参加予定者への返金や講師への支払いなどの事後処理作業が残りましたが、ウインクあいちも名古屋市公会堂からも会場キャンセル料が免除されたことが救いでした。思わぬところで日本小児科医会関連業者から事務的作業代の請求があったり、補助金100万円の入金が遅かったりしましたが、最終的な赤字約30万円分は日本小児科医会に肩代わりしてもらいました。

講演内容が惜しまれたセミナーであり、①講演の抄録を日本小児科医会会報に掲載②発表用のPPTを愛知県小児科医会会報に掲載③発表用のPPTを日本小児科医会ホームページに掲載、することになりました。ところが、③の作業が実行されていなかったことが、令和3年になってから発覚しました。最後の最後まで満足の行く円滑なセミナー運営を行うことができなかつたと悔やんでおります。

セミナーが二度の中止となって悔しい思いの最中に、令和5年の日本小児科医会総会フォーラム(フォーラム)を愛知県小児科医会が主催することに決まりました。セミナー準備委員会のメンバーに新たに頼もしい理事の先生方が加わって、フォーラム準備委員会が発足しました。フォーラムの規模はセミナーよりも大きく、前述したようなセミナーでのいくつかの反省点から、準備委員会を総務・財務・企画・広報に分けて役割分担して運営することにしています。お互いの連携に手間がかかる反面、特定の業務に集中できるメリットに期待しています。セミナーに関わった努力を無駄にしたくない、ぜひともフォーラムを成功させたいとの思いが、バトンとして準備委員会に引き継がれています。愛知県小児科医会の皆様におかれましては、フォーラム開催ま

で準備委員会にご支援を賜りますようお願い申し上げます。